

「長期計画策定会議（第1回）」議事概要

1 日時

平成31年4月19日 午後1時20分から午後1時30分まで

2 知事挨拶（要旨）

- 長期計画の策定に当たって、今日はキックオフであり、方向性、考え方などを皆さんと共有していきたい。

- これまで「2020年に向けた実行プラン」に基づいて、「セーフシティ」「ダイバーシティ」「スマートシティ」の三つのシティの実現に向けた施策を積極的に展開してきた。

- 本年度の予算でも、都市力の強化、稼ぐ東京、人と人を繋ぐという3つの観点から様々な新規事業を盛り込んだ。これらの事業を早期に軌道に乗せて、都民の皆さんに効果を実感いただくということが重要。この3つを戦略政策課題の柱として推進していくためにも、庁内の体制を強化した。新たに立ち上げた戦略政策情報推進本部も含め、関係の局、それぞれ連携して更に横断的な取組をお願いしたい。

- 今年9月のラグビーワールドカップ、来年夏の東京2020大会、いよいよ準備も総仕上げの時期に来ており、全庁一丸となって、この二つのメガイベントを成功させたい。

- もう一つ、私たちが取り組まなくてはならないのは、より長期的な観点から、2020年大会以降の未来の東京の姿を描き、その実現に向けた「道しるべ」を示していくことである。

- 2025年以降の人口減少や更なる少子高齢化、激化する国際的な都市間競争、気候変動、それから想定を超えた自然災害の危険、危機など、東京を取り巻く環境は、一層厳しさを増している。一方で、今般の地方法人課税のいわゆる「偏在是正」措置の影響で、都の財政の状況は、決して楽観できるものではない。

- 長期計画を練る上で重要な点は、鳥の目を持つことではないかと思っている。隣の中国では、毎年800万人出る大卒者の就職の問題があり、一方で、コンビニの無人化など、技術力もどんどん高まっているという状況がある。さらには、60歳以上の人口が、2050年には4億から5億になるという。東京の人口動態のみならず、こうした点が我が国の経済に与える影響を見なければならぬ。逆に、社会保障などで東京が進んでいる分野を海外に紹介するといった視点もある。
- 技術革新のスピードが、10年ひと昔と言うが、2020年から30年・40年・50年となると、日進月歩どころではなく、分進時歩とでも言うべき、想像もつかないぐらいのスピードで変わっていくであろうことも推察される。
- これまでの長期計画の策定とはかなり違った要素、環境の中で、都民が必要なサービス・行政を描いていくのは、想像力、様々な情報を分析する力、更に先を見る力、これまでにない我々の都政としての能力が、また知恵が必要になってくる。これらの様々な課題を克服して、積極的に都民の明るい未来を描く、そしてそれを実現するための未来への投資をどうしていくべきなのかを示していくのが今回の長期計画になる。こうした想いをもち、三つのシティをさらに進化させるための新たな長期計画にしていきたい。
- キーワードは2つ、「成長」と「成熟」である。持続可能な成長、成熟社会としての東京、この2つのキーワードを大切に考えていただきたい。
- 国際的な都市間競争を勝ち抜くためには「成長」を続けなければならない。成長し続ける都市東京を作り上げていくためには東京の未来の姿を今の取組のただ延長線上で考えるのではなく、AI、IoTなど、科学技術の飛躍的な発展、経済のグローバル化の更なる進展、これらを見据える必要がある。どのような社会になっていくのか、想像力を逞しくして、大胆な議論をお願いしたい。
- 今回新たに国際競争力強化プロジェクトを立ち上げており、海外の先進事例を積極的に取り込んでいく。また、国際的に認知されているSDGs、こういった点も取り入れていく。様々な観点から議論・検討を進めていただきたい。若手の職員のフレッシュな感性を活かすのも一つである。今回の職員500人の海外視察という、激動する世界を体感する機会なども活かして知

恵を出していただきたい。

- 都民が安心して豊かに暮らせる東京を実現していくために「成熟」した社会にふさわしい施策が必要である。ワールドカップ、そして2020大会を通じて得られるハードとソフトの両面のレガシーを更に発展させるということが必要になってくる。加えて、少子高齢化、人口減少社会の到来、気候変動への対応などの課題があるが、その中でも誰もが安心して生活できる、持続可能な都市の実現という視点からの検討をお願いしたい。
- 「成長」と「成熟」を両立させていく、そして東京を発展させていくためには、全国との共存共栄も必要になってくる。2025年には大阪・関西万博が開かれるということからも、都市部との連携、さらには、各地の産業や文化とのコラボなど、オールジャパンの視点での議論を進めていただきたい。
- 今後、都民の声、それから産業界、有識者の方々、都内62区市町村の御意見、これらをしっかりと丁寧に伺い、その御意見を計画に反映することで、東京の総力結集という方向を目指していきたい。一言で言うと「みんなで作る計画」ということである。
- まずは課題の洗い出し、そして東京の将来像の議論を精力的に進め、8月を目途として、一定の論点整理を行う。ぜひ、スピード感を持って検討を進めていただきたい。
- あと10日余りで新しい元号、「令和」時代がやってくる。副知事、教育長、各局長、力を合わせて、全庁で知恵を絞って、新しい時代にふさわしい、明るい東京の姿を描き出していただくようお願いしたい。

3 議事（「新たな長期計画（仮称）」策定に向けて）

政策企画局長から以下の内容について説明。

- 通知文について
新たな長期計画の策定に向け、全庁的な検討体制を整え、これまでの政策課題の洗い出しや、目指すべき将来の東京の姿について議論を開始する。
- 2060年までの東京の人口・世帯数予測について
東京都の総人口は2025年、1,417万人でピークを迎え、以後減少し、2060

年には1,192万人になる。また、東京都の世帯数は2035年に724万世帯でピークを迎え、以後減少し、2060年は643万世帯になる。検討に当たっては、本予測も、各局の政策立案の基礎データとしてご活用いただきたい。

4 副知事発言

長谷川副知事から以下のような発言があった。

- 知事から話があったように、新たな長期計画の策定に向けて、全庁一丸となって、スピード感を持って検討を進めていただきたい。
- 政策企画局は、都庁全体の総合調整を担う立場から、各局との意見交換や調整を精力的に行っていただき、しっかりとした論点の取りまとめをお願いしたい。
- 財務局は、決して楽観視できないこの都財政の状況を踏まえて、長期計画の裏付けとなる財政面からの検討を進めていただきたい。
- 総務局には、区市町村との調整役としての役割を果たしていただくようお願いしたい。
- 各局においては、まず、それぞれが抱えている政策課題について、知事からも話があったように、想像力豊かな議論を積極的に行っていただくようお願いしたい。加えて、本年のラグビーワールドカップと来年の東京2020大会の2つのメガイイベントを通じて生み出されたレガシーの具体化、あるいはベイエリアビジョンとの調整、戦略政策課題への対応など、各局が幅広く関わる課題についても、局の垣根を超えて緊密に連携してしっかり取り組んでいただくようお願いしたい。
- 希望と活力に満ち溢れる将来の東京の姿を描くべく、私を含む3人の副知事も一緒になって議論に参加するので、皆さんには、積極的な検討を是非お願いしたい。

以 上